

# コンベンション KOBE

1994  
10 秋

No.152



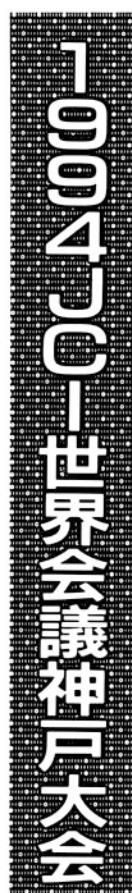
発行 (財)神戸国際交流協会 〒650 神戸市中央区港島中町6丁目9-1 (神戸国際会議場内) ☎(078)302-5200 FAX.(078)302-6485

テーマは

11月10~19日

## 「Global Communication for the Future」

2万名が神戸に集う



JCI 創立50周年記念



開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

スローガンは「糖尿病の予防—新しいヘルスパラダイム次世紀に向かって」

2004年世界会議神戸大会

開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

開催にあたって  
実行委員長 永田 耕一

## 海外100カ国から2千500名参加

11月6~11日

## 第15回国際糖尿病会議

スローガンは「糖尿病の予防—新しいヘルスパラダイム次世紀に向かって」

世界の百五カ国百二十六団体が加盟し、糖尿病に関する学術研究をはじめとし、医療技術協力、予防、教育など糖尿病制圧に関するあらゆる事業に対して活動を行っている国際糖尿病連合（略称IDF）が三年毎に開催する「第十五回国際糖尿病会議（組織委員会会长 馬場茂明、神戸大学名誉教授、兵庫県立成人病センター総長）」が、十一月六日（木）～十一日（金）の六日間、ポートアイランドの神戸国際展示場、神戸国際会議場及びその周辺施設を利用して開催される。

本会議のスローガンは、「糖尿病の予防—新しいヘルスパラダイム次世紀に向かって」、内外の関係者五千名（海外百カ国二千五百名）が一堂に会し、糖尿病のケア、予防、治療法、教育などについて、学術交流や科学的討議とともに実

行可能な方策を探り、また相互協力の方策を決定する。

会議では、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、一般演題、ポスターセッション、サテライトシンポジウム、学術展示など多彩な討議の場

が設けられている。

今回の特色は、学術セッションとヘルスケア&教育セッション。学術セッションでは、糖尿病研究の最新の進歩と、その臨床応用と技術移転についてのあらゆる情報をを集め討議され、的確にその将来性と研究の方向性が把握できるよう工夫されている。また、ヘルスケア&教育セッションでは、糖尿病患者の治療や日常生活の実際的指導のあり方、教育法、技術的支援、さらに生活保障、障害者援助、福祉のあり方などについての行政機関への提言など、具体的活動に

がビデオ、ポスターなどで紹介さ

れる。

### 総会講演の概要

- 糖尿病のメサンギウム（糸球体間質） J.R. Turtle氏（豪）
- IDDMにおけるβ細胞破壊の機序 J. Nerup氏（デンマーク）
- 21世紀の医科学発展のための糖生物学 木幡陽氏（日本）
- 21世紀の人工臓器 P.N. Galletti氏（米）
- 遺伝子治療の展望 T. Friedmann氏（米）
- バイオセンサー研究開発、最新の動向 軽部征夫氏（日本）
- 2021年の糖尿病－インスリン発見百年後 J.S. Skyler氏（米）
- インスリン感受性をめぐって K.G.M.M. Alberti氏（英）
- 糖尿病合併症の成因 H. Keen氏（英）
- IDDMにおける糖尿病性細小血管症の危険因子としての高血糖 S.M. Genuth氏（米）
- NIDDMと心血管疾患は生前に由来するか？ J.J. Hoet氏（ベルギー）
- 糖尿病の世界－過去から未来へ L.P. Krall氏（米）
- WHO健康開発における政策研究 中島宏氏（WHO）
- 百万人の糖尿病ケア：来るべき21世紀への挑戦 J.S. Bajaj氏（印）

今年で創立五十周年を迎える記念すべき年に、世界の青年会議所盟し、会員数四十三万を数える世界最大の青年団体組織。

「世界平和の実現を希求するたためには、青年による国際機関を設置することが必要である」との考えから、一九四四年十二月、第二次世界大戦の最中に設立されたJCI（国際青年会議所）。その本部はマイアミ（アメリカ）にあり、現在八十七カ国が加盟。会員数は四十三万にも上ります。年一回世界会議が開催されましたが、今年の神戸大会はJCI創立五十周年の記念すべき大会となります。

神戸大会のテーマは「Global Communication for the Future」。十一月十日から十日間の日程で、世界百十カ国・地域から過去最大規模の二万名のメンバーが神戸に集い、各種のプログラムを通じて交流を深めます。さらに、五十年記念の催しや神戸ホリデーなど年らしい主張や提言を行い、広く国際世論を喚起することになります。このようなことは、一疾

やイデオロギーを超えて、ヒューマニズムと人間愛に基づいた青年らしい主張や提言を行い、広く相互交流を深めると同時に、政策などの諸問題について意見交換される。また、会議以外にも、茶会などの日本の伝統芸能や文化を実演・紹介する日本伝統文化展、音楽コンサート、海外からの参加者を招待するホームホスピタリティなど、会員相互だけでなく、神戸やその近郊の一般家庭に招き食事を共にするホームホスピタリティなど、会員相互だけでなく、一般市民との交流を図る各種のプログラムが用意されている。

なお、今回は、今年新しく発足したロシア共和国青年会議所が参加するなど、この大会としては最大の規模となっています。

開くほか、国際社会・経済・文化

員が一堂に会し、総会・理事会を開催

お願い申し上げます。

Communication for the Future」

With the Spirit of『MOTTAI』

（略）

（



